



今月の特集編集は<札幌/細谷洋子・今村雅子>

135号 400円

ミニコミ特集Ⅱ

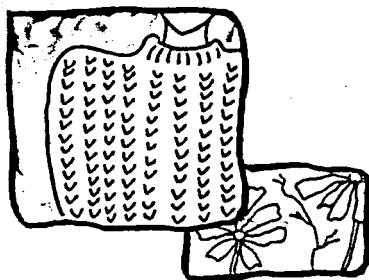
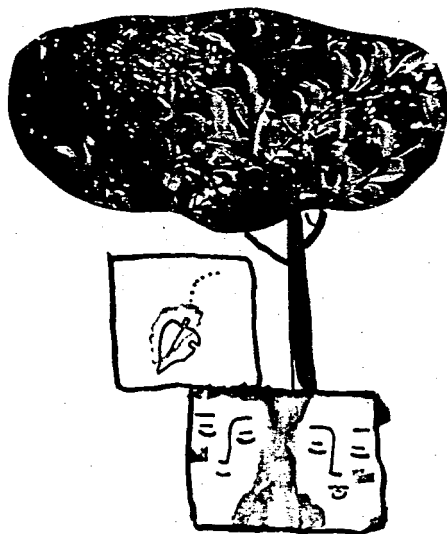
ネェ どうしてそんなにミニコミが好きなの?

.....細谷 洋子	3
<リーぶる・ど・ふぁむ>.....齊藤・寺沢	4
ウィメンズブックストア<松香堂>...松本八重子	5
ミニコミの買える本屋<金栄堂本店>三好久美子	6
『ウィメンズ・まいん38』.....大原 涼	7
『ウィメンズブックス』.....松本八重子	8
『WILL, JAPAN』.....齊藤 千代	9
地域別全国ミニコミ広場.....	10

女の本を1割引きでお頒ちします.....20

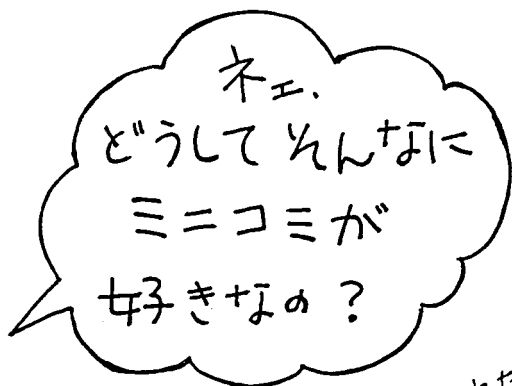
<私の仕事>私は化粧品店『シャンティ』の

吉祥寺支店長だった.....日吉 和子	21
映画評『赤ちゃん』はトップレディがお好き』.....	22
読書室『ふたりは女』『独婦運20年史』.....	23
海外情報一女とエイズ.....	25
国際フェミニスト用語.....	27
意見一くちびるに言葉を取り戻そう...結城 有子	28
緊急アピール このままでいいの? 天皇の問題...	29
女のグループ.....	30
女のつどい.....	2
あこらのあこら.....	30



~~~~~女の講座・女のつどい~~~~~

| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | テ ー マ ・ 主 催 者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 会 場 ・ 連 絡 先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月5日(土)<br>11月9日(水) 18:30~<br>11月12日(土) 13:30~<br>11月12日(土) 14:00~<br>11月15日(火) 10:30~12:00<br>11月21・22・23日11:00~<br>11月23日(水) 13:00~17:00<br>11月25日(金) 18:00~20:00<br>11月26日(土) 13:30~20:00<br>11月26日(土) 15:30~<br>12月4日(日) 11:00~15:00<br>12月5日(月) 18:30~21:00<br>12月8日(木) 18:00~21:00<br>12月10日(土) 13:30~16:30<br>12月10日(土) 13:30~16:30<br>12月10日(土) 13:30~16:30<br>12月11日(日) 18:00~<br>12月13日(火) 13:30~15:30<br>12月14日(水) 18:30~21:00<br>12月19日(日) 18:00~ | 今、人権が危ない！拘禁2法はごめんだ！03  254  44288<br>女のためのクリニック準備会・ベッサリ講演会06  921  7001<br>模擬裁判「チカン誘発？銀行ポスター」へ行動する女たちの会V<br>国民集会「許すな！リクルート疑惑ただせ！不公平つぶせ！消費税<br>女と書くことー山下智恵子、高橋ますみ<br>生活用布展 麻島澄江ほか<br>このままでいいの？天皇の問題ー主権在民の視点から 住井すみえほか<br>長寿社会とライフサイクルー女性の会社づくりへ生活科学研究所V<br>商品化時代の生命・バイオADNA問題研究会V<br>婦人科手術をうけるとき・うけてみてー加藤治子(産婦人科医)<br>であひ市ーうらの畑の野菜、ハーブ染、0262  27  8501<br>韓国女子労働者の現状と課題アジア女子労働者交流センター<br>天皇・戦争・女ーいま「昭和」を問う12・8集会03  816  2057<br>アジアの女性運動と女子労働者の役割 連絡先03  202  4993<br>世界人権宣言四十周年「性差別をなくす女性たちの人権集会」<br>指紋カードの生涯携帯制度をなくそう！<br>六〇歳過ぎの社会参加へ生活科学研究所V03  204  6291<br>村の人たちはどこへ行つたか？フィリピンの人権状況を問う<br>主権在民の視点から天皇制を考えるへ国家秘密法に反対する女性の会V | 日比谷公園小音楽堂<br>ウーマンズ・ヘルス・センター<br>渋谷勤労福祉会館03  357  9565<br>明治公園<br>東海BOC「スペースウイン」<br>東京・自在堂03  498  1468<br>山手教会(渋谷) 03  205  7363<br>東京都社会福祉総合センター16階<br>日本市ヶ谷YWCA<br>ウーマンズ・ヘルス・センター(大阪)<br>長野県民文化会館西隣えんめい茶ひろば<br>大阪YWCA会館<br>日仏会館ホール03  291  1143<br>東京・中央労政事務所<br>主婦会館ホール03  265  8111<br>文京区民センター<br>東京都社会福祉総合センター16階<br>自治労会館ホール03  291  5901<br>有楽町マリオン03  447  1361 |

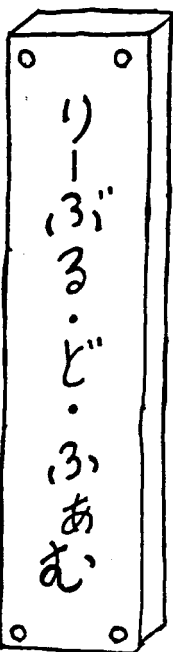
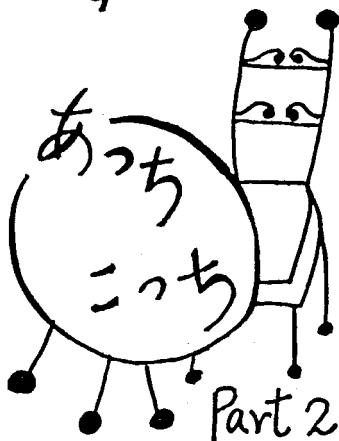


エーと、  
マスコミっていうのは、ある程度 完成されたものしか  
出版されないじゃない。 それなりの人が  
それなりのレベルまでまとめたものって 言った方がいいかな。  
だけど、ミニコミは、未熟な人間が  
生きてるプロセスのまま、考えたり悩んだりしてる  
プロセスのままが 投げ出されてるんだよね。  
「もうだ、もうだ」と思うにせよ「ちょっと違うんじゃない」と  
思うにせよ、自分と同じような人間が、  
さまざまに悩んだり苦しんだりしながら、  
同じ時代を一生懸命 生きてるのに 出会うおもしろさね。  
それと、作り手の呼吸まで  
伝わってくるような感じがあるでしょ。  
なんとなく温かみがあるじゃない。  
いろんな人がいて、いろんな生き様があって、  
いろんな リブがある……  
ってことか。  
ミニコミを見ると、実感として  
解るんだよね。

(札幌 細谷 洋子)



みにこみ  
すぺ〜す



ドアを開けて、うなぎの寝床のような奥の部屋に入ったとたん、かぐわしい本の香りに打たれた。なつかしい紙の匂い、インクの匂い。むかしの我が家の書斎のような、小さくて、静かで、落ち着いた空間。

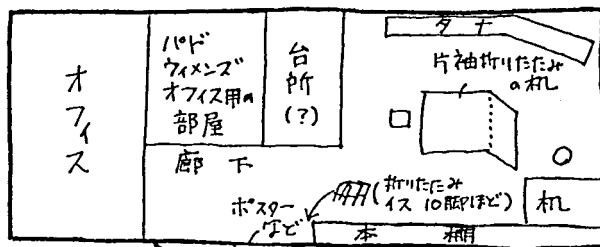
真ん中に、折りたたみ式のテーブル。両側に六つずつ、合計十二の書棚には、どれも刷り立ての本がびっしり。市販されていない機関誌類も揃っている。へりーぶる・ど・ふあむV日本語で、ズバリ「女の本」の名にぴったりのスペース。

ただ、小田急線「参宮橋」から歩いて六、七分、マンションの四階という地の利はやや不便。「売る」のにも不便だけど、時々リユックかついで買いつけに来る人もいたり、ほかのこともやってますから、まあ…、という説明だった。

この主宰者は、〈パド・ウイメンズ・オフィス〉。ほかのこととは、女の新聞切り抜き誌「月刊女性」のこと。年額三万二千円で三千部、順調な伸びで財政は確保されているようにホッとします。

もっとも、この編集のため、毎月一日ー五日と、十九、二十日、そして毎土曜と祝祭日がお休み。代わりに日曜はオープン。午前十時から六時まで、週六日営業。隣の事務所には〈女たちの映画祭〉が同居、生き生きと楽しげな、ステキなところでした。

(斎藤千代・寺沢恵美子)



東京都渋谷区代々木4-28-5-410

☎03=370-8440

# ウイメンズブックストア 松香堂

京都府庁のすぐ近くにある小さな本屋が、〈ウイメンズブックストア〉という看板を掲げ、日本で最初の女性の本の専門店に生まれ変わったのが七年前。

今でこそ、女性問題を専門に研究する女性学も市民権を得ているが、看板をあげた八〇年代初めは、やっと日本でも「フェミニズム」という言葉が聞かれたところ。もちろん関係する本もさほど多くなかった。

しかも、「女は本を読まない」「女は本を買わない」という定説をむこうにまわしての専門店づくりは、オーナーである中西豊子さんの「女性の意識向上に役立つ良い本を売りたい」という思いからの挑戦だった。

開店と並行して、女性の本と女性のための情報を知らせる「ウイメンズブックス」(編集長・木下明美さん)も発行。年四回発行の会報では、「老後問題」「女性と仕事」というように、毎回テーマを決めて本のリストアップをしている。「ただ売るだけの本屋」とはちがって、こうした地道な活動が、地方の読者と店を結びつけている。

また松香堂では出版も手がけており、フェミニズムのシン

ボジウムをまとめた本や、日本のフェミニズムを世界に知らせる目的で、「女の子の育て方」(樋口恵子著)の英語版「BRING UP GIRLS」も作った。この本は中西さんが国際フェミニストブックフェアに出店するために企画したもの。現在は「からだ・私たち自身」(ポストン女の健康の本集団著)の刊行をめざして忙しい。その編集会議には、松香堂の二階にあるフリースペースが使われている。

「本の寿命は三か月」といわれる昨今、せっかくの良い本もまたたく間に店頭から姿を消す。松香堂ではこうした本の流通システムに疑問をもち、たとえリスクは大きくても、すべて買い取りとしている。「出版から一年以上も経ってから、その本の良さが口コミで知れわたったり売れだすこともあるの。そうした本を支える力になれば」と書店主任の美奈子さんは話す。ここにも、良い本を見極める確かな目と、本を大切に思う松香堂スタッフの姿勢が貫かれている。

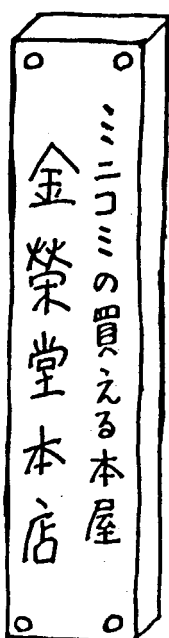
(名古屋 松本八重子)



イラスト 八重子晶子

京都市上京区下立売通西洞院西入る

☎075=441-6905



小倉にミニコミを売っている本屋があるとの噂を聞き、出かけて行った。書棚も古い木製だし、何か雰囲気のがう店だ。週刊誌や文庫本がなく、小型本は選書、叢書のたぐい。社会のコーナーには、フェミニズムで一段、天皇で一段、原発で一段などなど。新刊も、注文してやっと買えるような本が並んでいる。ところで、ミニコミはどこだ。やっと見つけた。棚の側面に八種類。んー、なんで少ないの。

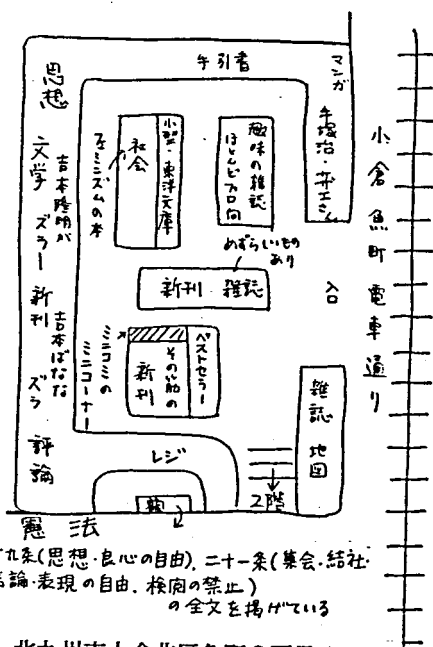
社長に事情をきこうと尋ねたら、現われたのは、先程から本屋に似つかわしくない大声で、いろんな客と本について議論をしていた男性だった。三代目である。

一九六八・七二年、彼が東京で学生だったころ、社会運動、思想、文学などのミニコミに出会い、地方にも紹介したいと店頭に並べたのはじまりだ。当時は、集会に参加し、各グループと知り合い、精力的に探し集め、四十種類は越えていたし、遠方から買いに来る客も多く、よく売れていた。それから十五年、このころは魅力あるものが出てないんだからしかたないと言う。たとえば、公害で言えば水俣、原発で言えば広瀬氏で、問題の本質から運動論まで一応出つくしたので

はないか。あとは、具体的内容は違っても、直接かわっていない人が買って読むには、今一つ魅力に欠けている。その上、これまでミニコミが担っていた分野に出版社が進出し、結構読ませるものを作っている。

ただ、詩や俳句でさえしゃべり言葉に変わってきているように、社会運動のやり方も、理論詰めから日常感覚へ変わってきているのは確かで、それは期待できるのだが……。本屋として言うところ、そういうグループは事務処理がいいかげんで、売れない割に手間ばかりかかると耳の痛い話。それでも、最後に〈あごろ〉営業部員に変身した私の依頼を快く受けてくれ、特集号も「月刊」も置いてくれることになった。

（〈あごろ九州〉三好久美子）



# ミニコミの女たち

(2)

『ウイメンズまいん38』



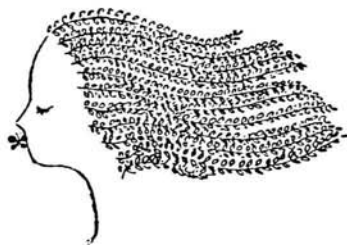
久保 和子  
さん

いま女のミニコミの主体を担っているのは、ほとんど団塊の世代のような気がするが、花のサンパチ、「一九三八年四月—三九年三月生まれに限る」ミニコミは少ないだろう。

呼びかけ人の久保さん（神戸新聞出版センター編集者）とゆうき・まやさん（詩人）が初めて会ったのは四年前。話をするうちに同じサンパチとわかった。そのとたん話のはずむこと！「不惑（四十歳）が目の前なんてとんでもない。不安定で、欲求不満で、悩みいっぱい」「もう一度人生の主役にならないと…。まだ何かやれるわよ」——十年ほど前は、

女の38度線などと言われた「三十八」こそ『燃女』の季節と、三十八歳の十二月、『燃女たち神戸集合！』の『忘年会』を呼びかけた。

集まったのは八十五人。「限られた人生を、楽しく精いっぱい生きたい。ゆくゆくは一人ひとりの自分史づくりも」と、まずは会報発行。「例会の記録」「いまいちばん言いたいこと」「読んでおもしろかった本」「行って楽しんだ集会」など、あふれる思いをB4判六ページに満載。隔月刊の予定は何となく不定期刊になり、タイプ印刷は、手書きコピーに変身したけれど、現在8号、『燃える思い』は変わらず誌面にあふれている。「四十、五十になっても38パワーを燃やし続けよう」のモットーは、多分、実現するだろう。（大原 涼）（ところで、この顔写真、見覚えのある方いらっしゃるいませんか？ そうです。「あごろ」の初期、編集の中心にいらした渡辺和子さん。いま（あごろ阪神）準備中です）



## 『ウイメンズブックス』



木下 明美  
さん

「三十三歳で出会った女性学に魅かれ、女性をテーマとした本を読み漁ったわ」と、「ウイメンズブックス」のひとり編集者兼編集長の木下明美さんは話す。

「ウイメンズブックス」は京都にある女性の本の専門店〈松香堂〉が年四回発行している友の会会報。毎回テーマを決めて本の特集をするほかに、最新案内、ミニコミ紹介、書評、海外通信なども掲載している。この夏の二十八号には「からだ・私たち自身」というテーマにそった本が六十冊ほどリストアップされている。

さらには、女性のための情報欄もあり、今号では「からだを考えるシテイセミナー」のお知らせが出ている。セミナーの主催は行政ながら、企画は〈松香堂〉内にあるフェミニスト企画集団。明美さんは、この企画集団のメンバー。つまり

女性たちが求めている本の紹介をするだけでなく、学習の場や内容もコーディネートする仕事を手がけている。

「専業主婦だった二十代後半にアメリカでフェミニズムに接したことや帰国後の姑との同居で、女性問題が『私の問題』として見えてきたの」と明美さん。

充電期間を経て参加した女性学の研究会では、女性同士が自分の言葉で語り合う楽しさを知る。〈松香堂〉オーナーの中西さんとはこの会で出会い、「ウイメンズブックス」の編集を手がけることになった。そしてまだ誰も手がけていなかった女性の本のブックアドバイザーという仕事も創り出した。京都にある婦人教育情報センターに並んでいる本や資料やミニコミは、ブックアドバイザーとして明美さんが選んだものばかり。また、女性の生き方をガイドする七百冊あまりの本を紹介した「女の本がいっぱい」（創元社）も共同で執筆。さて、本を通して女性の問題を考え、今を生きる女性たちの応援をしている明美さんから、あなたにお勧めの新刊書は、「女たちが変えるアメリカ」（ホーン・川嶋瑤子著）ご一読を。

（名古屋 松本八重子）





「WIL, JAPAN」



久田 恵  
さん

「えっ、私、責任者でもないし……、だいたい、うちのグループって、責任者とか編集者とか、いるわけじゃないし」  
「でも、呼びかけ人”でしょう」

「去年の六月の『私たちのネットワーキングまつり』の打ち上げ飲み会で話が始まったの。『女のネットワーキング』の本が出て、十七人の著者たちのネットワークと資料が残ったし、『女のネットワークセンター』をつくっちゃおうって（センター）は、最初は私の事務所にあっただけ、事務所が立ち退きになっちゃって、今はメンバーの職場の一つを借りてる」

その機関誌が「WIL, JAPAN (WOMEN IN THE ERLINK, JAPAN)」。

いま3/4合併号を編集集中。B4判で四ページから六ページ、〇号は見本誌として三千年部刷り、バラまいたけど、それから後は一千部、年四回発行で年間講読料一千元、現在の講読者は三百名程度というミニ

コミながら、オモシロさは抜群。●「平場」ってなあに？ ●  
女たちはネットワーキングする ●グループの危機管理など、  
テーマの選び方が、またニクイ。

こんなステキなミニコミ、つぶれてほしくないと、つい財政が気になるが、

「印刷費は一回分五万円、二十名のスタッフが毎月二千元ずつ出し合って、事務所代もそこから出してる」「あっ、広告代もあるし……」

「九センチに五センチの広告が五つも……。これ、いくら？」

「一つが七千円から一万円」

「ワアすごい！」「あー」は一ページで一万円よ」

「道理で、あっちこっちで高いと言われた……」

編集は持ち回り制（「あー」のマネの由）、一年に二号は全員が必ず編集に参加する以外、ノルマも強制もない。

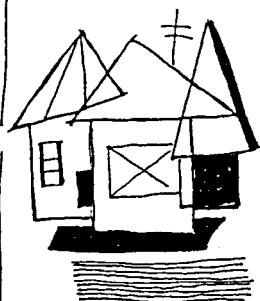
「女性問題意識はラジカルから穏健派までかな。運動なんてあんまり経験したことがない人たちがやってるの」

六月の「ネットワーキングまつり」で、生まれて初めての司会にオタオタしていた姿が、何ともカワユかった久田さん、  
「サーカス村裏通り」「正しい母子家庭のやり方」などの著書もヒットして、今は読売に毎週コラムを一つ、「日経ウィマン」の「ワーキングマザー」も担当、「みんなスゴーク忙しんです。めちゃくちゃ」といいながら春風たいとう……。  
「あー」もこんなふうにつくりたいなア。

地域別

全国

## ミニコミ広場



おびただしく発行されているミニコミの多分何分の一かしか集められなかったのに、スペースの関係でそれも全部は載せられませんでした。原則としてフェミニズムのものを中心に選び、他のジャンルのものはできるだけ同じジャンルに偏らないように選びました。

### <北海道>

『おにごっこ』

「おにごっこ」編集部

不定期刊

旭川市忠和6条3丁目63-294 土田方 ☎(0166)62-2696

「喫茶店での井戸端会議の声を、ハンドマイクを使って大きくしてみたかったというのが偽らざる動機かも」という創刊号のメッセージそのままに、PTAや性教育、老後、幌延問題など身のまわりの問題を見つめている。

『あごら札幌通信』

あごら札幌

月刊 年会費3600円

〒063 札幌市西区琴似1-6 グランドハイツ琴似408

会員通信としてスタートしたが、スタイルも定まり内容も幅広くなって今やしっかりミニコミ。フェミニストの本棚、シリーズ反原発を連載中。

『託児連絡会だより』

託児を考える連絡会

年6回 1部50円

〒063 札幌市西区富丘5-3-5-13 今村雅子方

託児をめぐるさまざまな問題の他、女にとって子どもとは、子連れで学ぶということ、家族など、託児を切り口にして幅広く女の問題を考えている。

---

『あのねのね』 「国家秘密法」に反対する女の会・北海道 不定期刊

札幌市中央区南6西11第二さっしんビル札幌共同法律事務所 ☎(011)563-0171

「国家秘密法」に反対する女の会・北海道の機関誌。誌名は「国にないしょ話をさせないで私たちのないしょ話は自由に」という気持ちから。

---

『ネットワーキングニュース』 ネットワーキング' 85 隔月刊 年会費1000円

〒063 札幌市西区二十四軒4-7 岩井ビル2F ☎(011)644-5533

リサイクル、反原発、食べ物、第三世界との連帯etc…。誌名のとおりの様々な市民運動をネットワークしようと発刊されたミニコミ。レイアウトがとてもいい。女性グループとのネットワークがやや少ないのが残念。

---

『サッポロ村だより』 リサイクル運動情報センター 年3回刊 年会費1000円

〒063 札幌市西区琴似1-7 琴似セントラルハイツばけっと内 ☎(011)612-3738

ゴミを通して暮らしを見つめ直す。シリーズ<我家のゴミ>第3回「忙しいと増えるゴミ」がおもしろかった。

---

『花いちもんめ通信』 花いちもんめ(葛井明子) 60円+カンパ

旭川市豊岡2条5丁目 八百屋旬太郎 ☎(0166)34-9710

「いらないっしょ! 原子力発電」のパロディ「いいっしょ! 自家発電」などなど作っている人がしっかり楽しんでいる。上野千鶴子の読書会の呼びかけの他、女の視点で暮らしや社会を考えるエッセイなど。笑っているうちに読まれる。

---

『いんふるえんざ』 むらさきつゆくさの会 月刊 6カ月1200円

〒070 旭川市花咲町3丁目開発A404 森紀美子

しなやかにしたたかに反原発運動をしているむらさきつゆくさの会の機関誌。

---

『ひらひらニュース』 ひらひら運営会議 不定期刊 1部100円

〒001 札幌市北区北18西5 18条ビル ☎(011)746-2801

ごぞんじミニコミ喫茶「ひらひら」発行のミニコミ。さまざまな運動やイベントの情報の他、時には熱い誌上論争も。

---

『あんふあんて』 あんふあんて旭川グループ 1部500円(送料200円)

旭川市2条15丁目左2号 小原典子 ☎(0166)22-1699

「あんふあんて旭川グループ」10周年記念誌。ゆっくりなぶんしっかり周りをまきこんで歩いてきた子連れ女たちの歩みの確かさが伝わってくる。

---

『旬太郎旬報』 やおや旬太郎

旭川市豊岡2条5丁目 八百屋旬太郎 ☎(0166)34-9710

数ある食べ物関係のミニコミの中で、<ベッド・クッキング—寝ながら料理しよう—>というのではないのです。こうしたらきっとおいしいだろうという想像の料理です>なんて記事があるのは、きっとこれだけ。

## <東 北>

『あかね』 あかねグループ 隔月刊 24ページ 100円

〒982 仙台市南小泉2丁目8-26 福永隆子 ☎(022)285-0945

福祉と授産の二本柱で多彩な活動をしている主婦グループの機関誌。

『国際婦人年みやき婦人のつどいニュース』 不定期 10ページ 実費カンパ

〒980 仙台市昭和町3-5-1011 平沢きょう方 ☎(022)272-0689

雇用均等法、国内行動計画、老後など、女をとりまく法律や制度を学び合い、伝えている。

『ぺんぺん草』 グループぺんぺん草 月刊 3ページ 実費

〒983 仙台市清水沼3-2-17 千葉正子方 ☎(022)291-7452

女の映画の自主上映会、女の生き方を考え合う学習会を通して、通信を発行。

『かがやけおひさま』 おひさまや 週1回 1ページ 無料

〒980 仙台市中央4-8-17 ☎(022)224-8540

本日の野菜情報などの他に“カビの研究”なんて読み物などが人気です。

『まごころの米やさん』 杉崎信子 隔月刊 4ページ 実費

〒032-12 青森県南津軽郡常盤村水木水元112-1 ☎(0172)65-3432

同じ田んぼの米を食べている仲間への通信。田んぼの“風”がみえるような便り。

『むらさきつゆくさ』 反原発仙台の会 不定期刊 10ページ 50円

仙台市中央郵便局私書箱194号

『鳴り砂』 女川原発訴訟支援連絡会議 月刊 8ページ 実費

〒982 仙台市若林5丁目4-50 清水内科外科医院内 ☎(022)286-1586

『MOTTO』 仙台にもっと図書館をつくる会 隔月刊 10ページ 30円

〒980 仙台市川内川内住宅12-102 扇元久栄方 ☎(022)223-6250

ていねいに仲間づくりをしながら文化的過疎市仙台を変えていこうとする運動の会報。

『大地と北斗』 鈴木範子・孝男 不定期刊 実費

〒982 仙台市八木山緑町16-14-15 ☎(022)228-1708

原発問題などもとりあげた家族通信。自分でも作ってみたい方、参考にどうぞ。

『エネルギーおばさん通信』 月刊 10ページ 実費

〒036 弘前市城東4-10-1 宮本久美子 ☎(0172)28-0888

いま“弘前の女”といえ、宮本さんと小林さん。原発関係の新聞の切り抜きなど情報を満載。



## ＜ 関 東 ＞

### 『アジア・女通信』 アジアの女たちの会

東京都渋谷区桜丘14-10 ☎(03)463-9752

アジア女性のために活発にアクションをとっている女性の動きがよくわかる。

### 『交流』 「交流」編集会議

月刊 1部 200円

東京都中野区江古田4-17-14 増野潔方 ☎(03)385-2293

いろいろな生活領域から体制に異議申立てをしている人たちの交流と討論の場。

### 『行動する女』 行動する女たちの会

月刊 1部 200円

東京都新宿区荒木町23中沢ビル3F ☎(03)357-9565

私生子の人権、女性の人権を守る立場から拘禁二法案に反対する、やっぱりひどい日本のマンガ等々、誌名のとおり行動する女たちの情報がいっぱい。

### 『WIL, JAPAN』 女のネットワークセンター

年4回1000円

東京都豊島区西池袋2-36-1 ソフトタウン池袋901 ☎(03)980-8913

全国各地の女のグループの活動をいきいき本音で伝えあっている。グループネットワークをめざしていて新鮮。

### 『えいがさいPRESS』 女たちの映画祭実行委員会／すぱーす・えいがさい

東京都渋谷区代々木4-28-5東都レジデンス410 ☎(03)370-6007

女性監督や女の視点で製作された映画の紹介、解説。なかなかおもしろい。

### 『W I F E』 グループわいふ

隔月刊 年3600円

東京都新宿区市ヶ谷加賀町2-5-23 ☎(03)260-4771

主婦の暮らしから女の問題を考える、主婦の投稿誌。

◆東京都新宿区荒木町二三中沢ビル三  
F ジョッキ内 ☎03三三二六二八三一四  
(水金土午後二〜八時)  
れ組スタジオ東京(敦賀美奈子)  
月刊 一部四百円

『れ組通信』  
一人一人が自分の立場から発言し対  
話することを通じて、レズビアン  
の価値を作りあげるための場として着実に  
活動している。中味の濃いレズビアン  
特集ページから、実用的な情報や楽し  
いお知らせなどかなり盛りだくさん。  
「レズビアン性は単にセクシュアリ  
ティの選択のひとつに過ぎない」とい  
うことが、これを読んで初めてわかっ  
たような気がする。(寺沢)



『はんど・いん・はんど』 円より子 月刊 年3000円

東京都渋谷区神宮前3-33-2-202現代家族問題研究所 ☎(03)402-7354

離婚という新たな旅立ちをした女たちのミニコミ。アドバイスは実用的、具体的にかなり役にたつ。

『地域・家族』 「地域・家族」編集委員会 1部 200円

小金井市東町4-35-7第2小金井ハイメント101 岩崎美穂

地域を通して、女・男・子が共に生きあえる場を求め、労働、職場、教育、医療を考える。

『あなたと私の性』 性を語る会 年会費1000円

〒158 東京都世田谷区上用賀4-22-13 アーニ出版内

会が発足して1年。第5号では「女の人権と性 — 売買春を考える」特集。

『新しい家庭科We』 ウイ書房 月刊 年間購読料6700円

東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14 ☎(03)326-1380

家庭科という一教科の枠を越えて、自立した男と女、人間らしい生活、差別のない社会を創り出す教育を願う人たちの雑誌。

『婦人民主新聞』 婦人民主クラブ 週刊 1ヵ月 600円

東京都渋谷区神宮前3-31-18 ☎(03)402-5238

人権、女性、平和など全てを網羅している。

『国際女性'88』 山下泰子研究所 1200円

〒354 埼玉県入間郡大井町亀久保1196 文京女子短大内 ☎(0492)61-6488

女子差別撤廃条約の研究、普及をめざして、講演会の開催、文献の翻訳、出版活動を行っている国際女性の地位協会の年報。確かな資料として貴重。

### 『ぷりずむ』

ミニコミの図書館「住民図書館」発行のミニコミ誌。

なんといってもみどころはミニコミ情報「交差点」。定期的に送られてくるミニコミだけで千二百だそうだが、新着資料一覧と創刊されたミニコミの一覧が毎号掲載されている。ジャンルを問わず、今どんなミニコミがあるかを知るのにはすぐに役にたつ。読んでおもしろいのは「ミニコミ探訪」。最近の傑作は28号の「思想と宴会」。何のミニコミか分かりますか? (細谷)

◆東京都世田谷区玉川一―二―三

☎〇三〇七〇九一四三三五

住民図書館(丸山尚) 年四回 千円



## 『みず通信』

みずの会 (太田博子)

月刊 年 800円

〒352 埼玉県新座市新座3丁目2-11-405 ☎(0484)81-5458

新座に住む女たちが暮らしの中で思うこと、伝えたいことを届けている。市民グループから二人の女性市議を出し、彼女達の報告もしている。市議会の舞台裏、二人の収支報告等おもしろい。

## 『AWRAN JAPAN NEWS LETTER』

AWRAN JAPAN 年3〜4回 会費2000〜1万円

東京都渋谷区桜ヶ丘14-10 渋谷コーポ211号

Asian Women's Research and Action Network (アジアの女性の研究と行動のネットワーク) に日本の女性も加わろうと作った。アジアの女たちと日本のフェミニストをつなぐネットワーク作りを目的とし、各国の情報、日本との関係を伝える。

## 『婦人通信』

社会主義婦人会議

月刊 年4000円

東京都豊島区目白2-23-25 第一親和ハウス 202号 ☎(03)984-5105

国内および海外の女性問題を取りあげている。内容もバラエティにとんでいる。

## 『女性教養』

財)日本女子社会教育会

月刊 年2400円

〒105 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館 ☎(03)434-7575

誌名、発行所名がカタイわりに巻頭言などの感覚は私たちとよく合う。全国の主に行政がらみの活動報告が多い。

## 『胡蝶』

津田塾大学女性問題研究会胡蝶 (はべる)

1部 200円

〒187 小平市津田町2-1-1 津田塾大学内新学館

津田塾大学の学生手づくりの女性問題雑誌。

# 全国のフェミニストをながめてみて...

☆一つだけ見てより比べてみるとおもしろい。表現や作り方の工夫によって、ずいぶん読みやすさ、わかりやすさが違うね。ミニコミの意義は情報だけじゃなくて、人と

人とのコミュニケーションもあるんだな。ってことがよくわかった。

★フェミニズムのものが案外少なかったね。

☆作り手に女の人は多いのね。地方は反原発が圧倒的に多い。

★反原発のものは知らせることが第一義のせいか読んでおもしろいというのはいないね。

☆もっと男と女が混じって作ったらおもしろくなるんじゃないかなと思うのもあった。

★タイトルがいいと読んでみようかなって気になるね。

☆内容がわかるようなわからないような、ちょっとひねってあるのがいい。

★「れ組通信」と「MOTTO」に、ベストタイトル賞をおくりたいな。

## < 東 海 >

『ワーキングウーマン』 男女差別をなくす愛知連絡会 月1回 年会費1000円

名古屋市千種区豊年町3-16 古居みつ子気付 ☎(052)723-0414

働く女性たちの今日的な問題点をすばやく感知して対応。  
実践と理論が平行して編まれている。



『らんばーだ』 中部女性クラブ 月1回 年会費1000円

〒441-18愛知県新城市上平井5 今泉幸子 ☎(05362)2-1533

女性問題の視点で、日常の暮らしを見つめ考えあっている。農山村に住む女性たちに支えられながら発行されていてユニーク。

『人として生きるあかし』 新白砂パート社員労働組合 年1回以上 500円

名古屋市市中村区竹橋町18-19 銀パレス2F ☎(052)451-5682

1982年に、10年以上働いてきたパートの主婦たちが勤め先の新白砂電機名古屋工場を全員解雇され裁判闘争に立ち上がって以来の毎年の中間総括。日本の労働史に確実に残る重要な小冊子。

『おんなの叛逆』 久野綾子 年2回 1部 250円

〒467 名古屋市瑞穂区桃園町堀田団地4-704 ☎(052)822-2550

個人で出し続けている女性問題のミニコミ誌。いつも本音で真正面から日常に埋没している女の問題を鋭い切り口でとりあげている。

『国際婦人年あいちの会会報』 北村明美 月1回

〒460 名古屋市中区丸の内3-5-35弁護士ビル403 ☎(052)961-6720

1974年、国際婦人年の前の年からスタート。東海地方の婦人問題に関心を持つ研究者、活動家、主婦など多くの女性たちによって始められた。地味ながらも、この地方のオビニオンリーダーとして大きな役割を果たしてきた会報。

『東海BOC情報サービス』 東海BOC 月1回 年3000円

〒460 名古屋市中区栄3-28-2 ☎(052)251-9064

東海BOCに能力登録した人々への情報紙。ワープロ手作りのミニミニ情報。無駄をいっさい省き、電報のように連絡事項のみを並べている。可読率 100%。

『グループこの指とまれ』 「グループこの指とまれ」 月刊 1部 200円

〒471 豊田市平芝町7-25-7 釘宮頼子

人間らしく生きていける社会、一人一人が主人公となれる社会づくりをめざしているグループの会報。手作りで印刷までやっている。

『ポコアポコ』 一宮の教育を考える会(山田牧子) 2~3カ月に1回 200円

一宮葉栗郵便局私書箱1号 ☎(0586)51-0347

愛知県一宮の教育問題の具体例から全国的な市民運動への連帯をめざしている。



## <関西 中国>

『ほんねの広場』 女性楽会 年1～2回 300円

〒532 大阪市淀川区新北野3-3-1 荒木洋子 ☎(06)302-2468

性別役割分担考、自分にとって家族とはなどについての記録集。

『女のためのクリニック準備会ニュース』 女のためのクリニック準備会

〒534 大阪市都島区東野田5-14-19 ☎(06)921-7001 月刊 年3600円

女性の身体に関する学習会やフリートーキングなどをニュースとして発行。

『ウィメンズブックス』 松香堂書店 年4回 年会費1500円

〒602 京都市上京区下立売通西洞院西入る ☎(075)441-6905

女性の本と女性のための情報提供。ウィメンズブック友の会会報。

『女性学年報』 日本女性学研究会女性学年報編集委員会 年1回 1000円

〒569 高槻市天川新町14-11 小川真知子 ☎(0726)73-3356

女性のおかれている現状や問題点を専門領域にとらわれることなくさまざまな分野において分析・研究。

『れ・ふあむ』 女性問題研究会 年1回 500円

〒569 高槻市真上町6-31-3 正路玲子 ☎(0726)87-8797

働く女たち、主婦してる女たちが日頃の思いをのびのびと書いている。既に21号を刊行。

『ふつうのOLのための10倍得する均等法』 国際婦人年北区の会&男女差別

賃金をなくす大阪連合会(大阪市北区西天満4-10-3植田ビル404) 単発 500円

ズバリ題名そのものの内容。条文と指針を書き、その活用術を満載。

『他人ごとでなく政治を考える会通信』 月1回 無料

宝塚市光明町29-26 金子洋子 ☎(0797)73-3956

公開学習会に参加した人に無料で発送。身近な中で感じ方を大切にして、深く自身の生き方を問うている。

『かめのこ』 カメの子サークル

〒536 大阪市城東区古市2-1-10-202 細見のり子 ☎(06)931-6043

「意識の変革から行動へ」をモットーに気長にしたたかに。

『てらこや通信』 ふりいとおく女の寺小屋 月1回

〒590-01 堺市新松尾台3-3-7-408 黒田慶子

子連れて集まり、女の生き方を語り合う。



『こんなものいらない こ・せ・き』 婚外子差別と闘う会 単発 300円

〒591 堺市長曾根町545-34 下野池団地14-202

女を抑圧するものは婚姻制度、家制度であるとし、嫡出子・非嫡出子のチェック欄の廃止を要求。

『親鸞だよネ』 藤谷不三枝 不定期 送料のみ

〒570 大阪府守口市橋波東1町 真宗大谷派覚了寺 ☎(06)992-1946

仏教界の女性差別を考え行動している個人誌。

『いっちょかみ』 いっちょかみのおばはんの会 月1回 40円

〒588 堺市陶器北1284-5 金勝美方

原発ってなんや? から始まった。自然を守り、現代の生活を考え直す。

『あごら京都通信』 あごら京都(塚崎美和子) 不定期

〒606 京都市左京区一乗寺築田町56-1 ☎(075)791-4623

フェミニストの視点から、人間、家族、愛などに鋭い問題提起を続けているユニークなミニコミ。1977年創刊で、もう75号に。

『うたは曙—歌で綴る女性史・戦前編』 グループ歌で綴る女性史 500円

〒573 枚方市香里ヶ丘6-4-3 由里洋子 ☎(0720)53-7701

与謝野晶子の「山の動く日来る」にはじまって、「婦選の歌」や「女工小唄」など10曲で綴ったユニークな女性史。

『あなたもとらば〜ゆ』 Cif.21世紀を生きる女性問題情報センター 500円

〒535 大阪市旭区4-20-29 金谷研究室 ☎(06)952-9430

第1回主婦の再就職準備講座の記録集。

『女性学七転八倒』 日本女性学研究会 単発 700円

〒602 京都市上京区下立売通西洞院西入 松香堂書店 ☎(075)441-6905

『家族』  
揺れ動く家族のゆくえを見定める月刊誌。  
夫婦、子育て、消費、家事、農家、世界の家族、映画、本、医療などなど、家族そのものや家族をとりまくあらゆるテーマをフェミニストの視点でしっかりとりえています。読みごたえのある、それでいて楽しい誌面。  
ほんとにいいです。(三好)  
◆広島市中区白島北町一六一二五  
☎〇八二二二二一〇二六六  
家族社(中村隆子) 月刊  
一部二百円



## <九州・沖縄>

『赤とんぼ』 小石玲子 月刊 1部 200円

大分市城南団地三組

平和運動の視点から障害者、在日韓国人差別など自分達のまわりにあったことを、自分のことばで考える。毎月、会計報告を載せているのも目をひく。

『草の根通信』 松下竜一 月刊 1部 300円

大分県中津市船場町

反原発など環境権確立をめざす個人通信。

『いきいき県政レポート』 いきいき県政レポート編集部 季刊 無料

福岡市早良区星の原団地10-307

福岡の県政・県議会を女性議員の目を通して報告。政治を身近に感じてもらう、知ってもらうとしている。

『君が代処分』 小弥「君が代」処分を考える会 年3回 1部 300円

〒806 北九州市八幡西区黒崎郵便局

『児童扶養手当の切り捨てを許さない福岡の会ニュース』 不定期 無料

〒810 福岡市中央区警固1丁目12-17-405 山下はるみ

女と子どもが生きやすい世の中をめざしている。活動の報告、他県の様子など。

『タバコいやじゃ通信』 タバコいやじゃの会 月刊

〒812 福岡市東区箱崎3-10-6「猫の事務所」内 ☎(092)651-9798

会の活動の話しかけるような報告と、日本・世界のタバコにまつわる情報を新聞・雑誌から紹介。一つ一つにユニークなコメントを付けていておもしろい。

『たんぱぽ通信』 原発なしでくらしたい長崎の会

長崎市筑後町2-1 ☎(0958)22-4098

九電との交渉など具体的な活動報告と、全国の反原発運動の動きや推進派の動きも紹介。こんなに原発関係の記事が新聞に出ているのかと新ためて驚かされる。

『うない』 うないフェスティバル事務局

那覇市西1丁目4-8 ラジオ沖縄(源) ☎(0988)69-2211

「うないフェスティバル」(今年で4回目)実行委員会ニュース。話し合ったことその他、ワークショップの紹介や参加している女性達の動きなどを掲載。「うない」とは沖縄の古語で姉妹を意味し、「sisterhood」にあたる沖縄語。

『琉球弧の住民運動』 琉球弧の住民運動を拓げる会 300円

佐敷町津波古944 安里英子方

一坪反戦地主運動の今後、天皇制講座一年を了えて、世界のエコロジー運動など。

# 女の本を 一割引きでお頒ちします

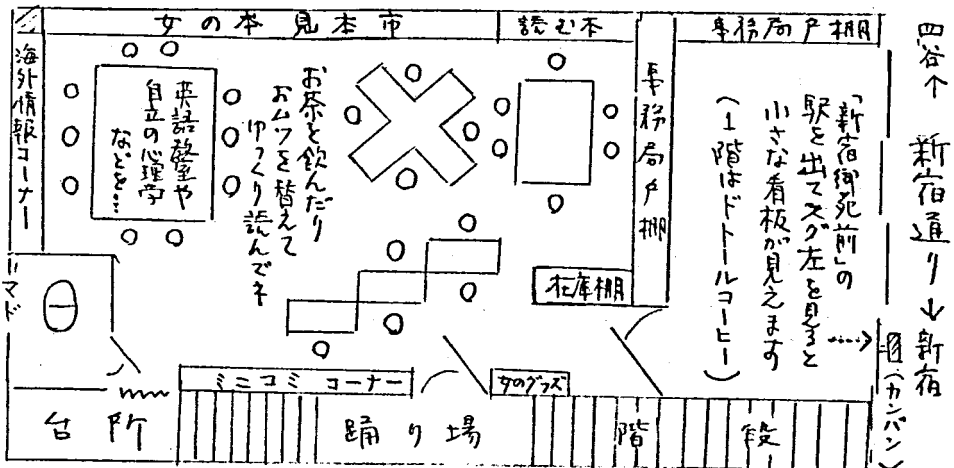
「あこら読書室」で本の即売と本の産直を始めます。

会員の皆様には、他社の本も定価の一割引きでお頒ちします。

地下鉄丸の内線「新宿御苑前」駅から徒歩ゼロ分、あんまり近いので通り過ぎてしまう方も多いほど交通至便な「あこら読書室」。73年に開設以来、女の本やミニコミの展示・貸出しを続け、一部販売もしていましたが、財政難でこの数年は思うような活動ができず、本をお預かりしてなかなか売れない状況でした。一方、大取次を通して、女の本は荷ほどきもされずに返品され、時には「こんな悪い本を作るから世の中が悪くなるのだ」と書店主から罵倒の電話がかかるなど、つらい思いを重ね、どんなに小さくてもフェミニスト・ブックストアをつくりたいと思い続けてきました。その夢を、やっと現実化します。名前は「あこら書房」。小さなスペースなので二千種類ほどしか置けません。が、私たちのすすめたいフェミニズムの本、フェミニストが書いた本を一冊ずつ置き、いわば「女の本の常設見本市」にする予定です。

ハガキを同封しましたので、「あなたが感動した本」「女たちにすすめたい本」を何点でもお知らせください。またご自分の著書や、お読み古しの本で、寄付してもよいものがありましたら送ってください。アイディアもどしどしどうぞ。（なお、割引き提供できる他社の本のリストは追って掲載します）

●ミニコミ展示スペースは、やっと少し整理してお目につけられるようになりましたが、まだ未整理分が段ボールに何十箱も眠っています。整理を手伝ってくださる方、ご一報下さい。七〇年代初期の女のミニコミから海外のミニコミまで並んでいる「読書室」、気軽に立ち寄ってくださいね。



（私の仕事）

No.13



私は化粧品店「シャンティ」  
の吉祥寺店長だった

日吉 和子

接客は苦手。お化粧品には興味がないし自分自身もお化粧品するのが嫌い。そんな私が成り行きで化粧品業界に入って二十年近くになります。今では、化粧品の販売を通してメイキアップや美容相談をしながら、いろんな人との出会いが楽しく、この仕事以外には考えられないほど。そして一日一人はメイキアップをしないと腕がムズムズするくらいこの仕事が好きになりました。それは二十年近く化粧品

にたずさわってきて、お化粧品したり、してあげることが商売、仕事というワクの中での、美しさの提供、かわりから、本当の意味で「化粧品を通して美しさをひき出す」ということができるようになったからです。結果的には化粧品を販売するのが仕事だけれど、そのプロセスにおいて、さまざまな多くの女性との対話で、職場での上司や同僚との問題、家庭や子どもとの問題、彼のこと、結婚のこと、ファッションなど、日常的な悩みや楽しみの話を聞いてあげたり、意見を求められたり、ストレスを発散させていたり、化粧品店は、こんな女性たちのコミュニティの場でもあるのです。そんな中で、その人の生活、環境、生き方、気分に合わせてお化粧品をしてあげるので。最近では、「私は今まであまりお化粧品しなかったけれど七十歳になったから、これからはお化粧品しようと思うの。教えて」とか、メイクしてあげると大変気に入って「きょうはお父さんが帰ってくるまでお化粧品を落とさないで待っているわ」

と嬉しそうに目を輝かせ、イキイキとして帰って行かれる高齢者の婦人客が多くなりました。日本女性の平均寿命が八十歳と長寿になり、老後の生活が長くなりました。お化粧品は生活のほんの一部だけれど、女性にとって、生活にうるおいを持たせ、心理的にもゆとりやハリを持たせる一定の効用があるのです。自分に似合ったお化粧品をもらって嬉しそうにウキウキ帰って行かれる姿を見ると、この仕事をしていてよかった、これからもっと技術を磨いて多くの女性を美しくし、私自身も、人間性を磨いて、いい対話ができるようにしたい。年と共に深みが増していい接客ができる。そう思っていたのです。ところが会社は、中高年になった婦人労働者を職場から追い出そうとして「四十歳になったら能力が低下するので店長は勤まらない。若い人に代わってもらう」と言い、降格と不当配置転換をし、仕事を取り上げてしまいました。でもこんな時だからこそお化粧品はきちんとして戦ってゆく決意でいます。

「赤ちゃんは

トップレディがお好き」

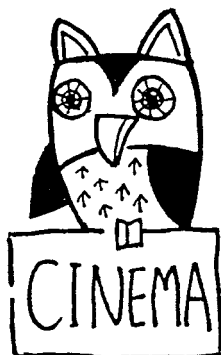
ダイアン・キートン主演

チャールズ・シャイアー監督

J・Cはハーバード出の有能な経営コンサルタントである。仕事がすべてのキャリア・ウーマンだが、ある日、急死したいところから十三か月になるエリザベスという女の子が遺産として彼女に託された。J・Cの悪戦苦闘の日々が始まる。

同棲相手の男も逃げだし、育児と仕事の二重の負担で、タイガーレディといわれたJ・Cも仕事上で失敗続き、職も失ってしまった。失意のうちに書類を整理していると、バーモントのすてきな家の広告が目にとまり、エリザベスと見いっただ。すっかり気に入ってその家に引っ越して来たが、欠陥だらけ。暖房はとまり、井戸は涸れ、貯金も底をついてきた。そんなとき、ヒマつぶしに作ったベビーフードが町のよろず屋で観光客に売れた。これだ！ J・Cはベビーフードの資料

を集め、経営戦略を立てる。エリザベスの顔をラベルにした「カントリー・ベビー」は全米で一大人気をまきおこす。失意のJ・Cに優しかった獣医サムとの愛がめばえ、彼女の田舎の生活も順調にすべりだしたとき、かつて彼女を追い出した会社から、破格の金額で「カントリー・ベビー」の権利を買い、彼女も重役に



迎えたいという申し出がくる。ニューヨークに乗り込んだJ・Cはその申し出を断わる。

ダイアン・キートンがこんな子持ちの役をするとは…。時代は変わったのだ。ベティ・フリーダグが「私たちの時代はキャリアか子育てかどちらかでしたが、私たちの娘の時代は、キャリアも子育て

も両方です」と言うてから久しい。キャリア・ウーマンが三十代後半で高齢出産するのが一種のブームとも聞いた。この映画は新しいサクセス・ストーリーである。J・Cも他のヤッピーたちと同じく、ハーバード・ビジネススクールで過酷に勉強し、重役や年俸数万ドルを夢みて歩いてきた。しかし、エリザベスと暮らすうちに、いかに自分自身を犠牲にして、社会一般がいう「サクセス」にしばらくつけられてきたかを悟った。彼女の中に価値変化があったから、元の会社の申し出も断わったのである。もう会社のためにすべてを失うのはまっぴらだ。自分は自分自身で考え、自分自身でやってゆく。自分のプライベートな時間、子どもと一緒にすごしたり、恋人と一緒にいる時間を多くとりたい。そして、私はそれを自分で選んだんだ。新しい女性の「サクセス」に拍手を送りたい。

《原題「ベビー・ブーム」一九八七年作品。一時間五十一分。ユナイト映画》

（札幌 佐藤陽子）

## あじろ読書室

『ふたりは女―母と娘の』

たかひとエロス』

門野 晴子著

学陽書房刊

\*\*\*\*\*

この本の初めに著者は、前作「わが家の思春記」で親子のやりとりを綴ったところ、読者から「どうして性を語り合える親子になれたのか」と問われたと書いてある。この本はこの問いへの真摯な回答である。

序章は、「あたしはママのコピーじゃないわ!」と娘・智子さんが叫ぶところから始まる。これは思春期を迎えた子どもを持つ親なら、身につまされる光景で大して珍しくはない。親の対応だってさまたまであらう。しかし、智子さんに親密なボーイフレンドができたところから母親である著者の他では見られない対応がはじまる。そして、なぜ著者がユニークな対応をする親となっていたのか、

\*\*\*\*\*

彼女自身の「主婦地獄」からはい上がる個人史として語られていく。結局、娘とそのボーイフレンドが自分の家で同棲することを許可する（智子さんは十六歳）。

彼氏に対して、母親としてだけでなく、自身一人の女として対応しながら、見守っている。あとがきに「母と娘が女という性に生まれたことを喜び合えずして、女の解放はありえない――中略――世界の女が大きく前進するこの時代こそ、母と娘は女同志として手をつなぐときではないか」とある。



ウーン! ネエ  
アナタドウオモウ?



☆若いカップルの性の見守り方、Kさん自身も一つの保護のあり方って言ってるけど、ここまでしなきゃならない必然性があるのかって思う。

☆私はね、十六、七の女の子が、母親か

ら自立したり、何かにチャレンジしたりするときは、後ろに男の助けなんかないに一人でがんばってほしいな。

☆無理矢理独立していく息子のほうにさわやかさを感じるね。

☆ところで若い男にとって、恋人の親を一人の女としてみるってのは?

☆彼にとつてデメリットは何ひとつないんじゃない。Kさんは必死でがんばり、彼は楽々とそれを受け入れてる。

☆セクシュアリティを含んだトータルな人間として、無理矢理ワク組みの中で枯れさせられることに抵抗し、こたわるのはわかるけど、あまりにも性そのものを重視するような気がするな。etc.:

読後、ああでもない、こうでもないと思春期の娘や息子を持つ者同士、話はずみました。なかなかショッキングで、考える糸口をたくさん提供してくれる一冊です。(二一九ページ 千二百円)

(札幌 今村 雅子)

\*\*\*\*\*  
『華やかにシンゲルライフ』  
——独身婦人連盟創立二十周年記念誌——  
独身婦人連盟編

三十過ぎれば「オールドミス」売れ残り」という偏見が強かったころ、「二百五十五万人の戦死者によって生じたアンバランス」と、大久保さわ子さんが明快に言い切ったことは、一陣の涼風のように今も記憶に鮮かである。しかし、それが二十年も前の、一九六七年九月だったとは、この書を手にするまで考えもしなかった。「あごろ」より五年も前に、「どくふれん」はスタートしていた。

第一章「草創のころ」に始まり、「それぞれの道」「折々のこと」「今私たちが」「余裕」「文通連」「女の碑」「提言」「クオヴァデス 独婦連」で終わる九章は、どれも貴重な現代女性史の証言として心に滲みる。

独り生きる女たちの

エネルギーが燃えている

\*\*\*\*\*  
時の流れに乗って羽ばたき出た  
シンゲルウーマン  
世の荒波に翼をもぎとられても  
たくましく翼をみがき

差別と偏見に涙を流しても  
心のうるおいを忘れない

独り生きる女たちは  
聞いつづける

(後略)

書名と同じ巻頭の詩「華やかにシンゲルライフ」(成瀬峰子)の「華やか」の形容詞を冠するまでに、どれほどの涙が流されたことだろう。

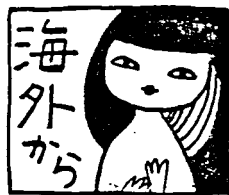
「それぞれの道」には、結婚を選んだ三人の手記もあるが、四十四で、六十四歳・六人の子の父とメキシコで新居を持ち、「シンデレラ」と羨望された佐伯さんは、「主人とは相性よく暮らしてきたが、何といっても子供のことできりきりし、ぐちをこぼせる人もないのでつい主人に言えば、彼は当然おもしろくない(中略)結局、後妻まま母業というのは

中間マネージメントだと思う」「でもいたわりあいながら共に老いていく人がそばにいることは、苦勞してみる値うちのある別の人生だ。しかしもしその人を見送る立場になれば、ずっと独身でいた時より数倍つらい孤独を味わうようになるだろう。独生、独死、独去、無一随者とは近頃心をひかれるお経の文句だ」と結び、一九八三年に教師から住職の妻に転じた野田さんは、先妻の娘に、「おカアさん、今からお墓の場所取つていたらエエわ」と言われ、「野田家の墓に入るつもりはこっちもない」とキツとしながら、「生涯の何年かでも縁の多い環境で心やさしい和尚と共に暮らすことができるならばずっとひとりでいたよりは幸せ。独りになれば寺を出て独婦連で身につけた心構えで老後を生きよう」と澄み切った心境。初めから「独りを生きる」と華やかな当今のシンゲルライフを思い浮かべ、草むし水漬く屍となった二百五十五万人の影を、否応なしに思い浮かべた。(B6判一七六ページ、非売品)

(千)



# 女性とエイズ



今年一月、チューリヒでエイズ救援委員会 (Swiss Help Against AIDS) の主催により、女性とエイズをテーマとした初の会議が開かれた。数百人の女性と数人の男性の参加者は、エイズ患者のために働いているソーシャルワーカー、看護婦、医者、心理学者などさまざまな専門家のネットワーク作りを主な目的として、医学的な問題、エイズの惨禍、エイズの予防、エイズとの関わり、エイズ救援活動とその限界など主に六つの分野について話し合った。

参加者の多くはエイズの惨禍の大きさのみならず、その引き起こした騒ぎに衝撃を受けていた。エイズは既成の価値観を揺るがし、人間の信頼関係を脅かし、家庭のなかに不安を持ち込んだからである。

会議のなかで出された重要な意見、報告、提言は次のようなものである。

医者のテレサ・シュトゥッツはまず、エイズに対する社会的文化的な反応は、我々が自ら生み出した「流行病」だと指摘した。そして、人生においてどんな危険も一〇〇%排除することができない以上、エイズのみに一〇〇%を求めるのをやめ、セックスの際コンドームを使用し、注射器は決して他人と共有しないことを鉄則とすべきだとし、潜在的感染者

には日常の清潔を心がけるようすすめた。彼女はまた、血清反応検査は結果が出るまで時間がかかりすぎ、誤りも多いので、意味がないと示唆した。

心理療法士のクリスティン・パサファントは、平和な家庭の幻想が崩壊、夫婦は不信と信頼の間で気持ちが揺れ動き、ティーンエージャーの教育に悩んでいると報告した。

元売春婦のジャーナリスト、ミスチャ・フォン・Sは、エイズ蔓延は売春婦のせいという「善良な市民」の主張に反撃、コンドーム使用は売春婦の鉄則だと語った。そして、この鉄則を貫徹しない立場の弱い売春婦―麻薬患者、中高年者―のためにも、コンドーム使用のキャンペーンの対象に「買春する者」も含むべきだと主張した。

また、性の営みに危険が「発見」されたと云うが、妊娠という別の危険に常にとさらされてきた女性にとって、この言い方は正しくないとの意見も出た。

会議では、エイズが女性に与える影響は男性が受ける影響とは異なる、という重大な事実が認識され、その対策が討議された。エイズが近い将来世界中の女性にとって深刻な問題となりそうな今、問題解決の具体策を講じるべく、来年も会議を開催することになった。[Lais-Nicee発行「Women's World」1987]

訳 貫久富木原睦美

家庭内の男と女を指す言葉

妻：結婚している女。古代は、男女にかかわらず結婚している相手をツマと呼んだ。現代でも和歌や俳句では夫をツマと呼ぶことが珍しくない。夫が家庭外に対して使うときのみ「妻」という。英語のwifeと対応するが、意味はずっと狭く、my wife, your wifeというようにどちらでも使える英語と違って、「私の妻」と言っても「あなたの妻」とは言わない。他人の妻に対しては「奥さん」、「夫人」、「おかみさん」などと言うが、「奥さん（様）」が一般的。ほかに、「家内」、「女房」、「細君」、「神さん」、「山の神」などがある。

夫：結婚している男。英語のhusband と対応するが、意味はずっと狭い。妻が家庭外に対して使うときのみ使うが、一般には「主人」と言うことが多い。ほかに、「亭主」、「旦那」、「宿六」などと言う。他人の「夫」にたいしては「ご主人」、「旦那様」が一般的。

配偶者：法律で夫にたいして妻を、妻にたいして夫を指して言う語。

つれあい：夫に対しても妻に対しても使う。

フェミニストは「主人」、「ご主人」のかわりに私（あなた）の「夫」、私（あなた）の「（お）つれあい」を使うように提唱しており、テレビの司会者なども近頃では「おつれあい」と言う人がふえた。一方、他人の妻のことも「山本さんの妻」というように使う運動をすすめている人たちもいる。また、「つれあい」「妻」に代わる新しい言葉を創り出そうとしている人たちもいる。適切な言葉を創り出して広めていきたい。

スタッフ募集

〔職種〕 事務局員（フルタイムまたはパート）

※ 事務全般、翻訳・通訳（日⇄英）

英語能力要

〔募集人員〕 1名

〔勤務時間〕 9:00-5:00

（9:30-5:30でも可）

〔勤務地〕 六本木

〔期間〕 11月～1989年3月

（4月以降も週3日程度のパートあり）

〔待遇〕

面接の上、相談に応じます。

※ 人件問題に取り組む民間団体での

実務全般。手紙文や書類の翻訳、

若干の通訳（日本語⇄英語）も含む。

差別や人件の問題全般に関心をお

持ちの方、熱意のある方を希望し

ます。

反差別国際運動

〒106 港区六本木3-5-11

松本治一郎記念会館1F

03-586-7447（担当・鈴木）

## 最先端国際フェミニスト用語

### 4. WIFE, HUSBAND, PARTNER

#### WIFE

The status of a woman who is married. Used to identify a woman's relationship to a certain man as married, e.g. Mr. Smith's wife. It is not used as a personal description such as "I am a wife". A woman would say "I'm married."

#### HUSBAND

The status of a man who is married. Used to identify a man's relationship to a certain woman as married, e.g. Mrs. Smith's husband. Not used as a personal description such as "I am a husband."

#### SPOUSE

A neutral term to refer to either a married man or woman in relation to his or her partner. For example, Betty is Tom's spouse and vice versa.

#### PARTNER

A neutral term preferred by many feminists to describe the person who the speaker is in a committed relationship. Used by either married people or unmarried couples, it carries no sense of ownership that the terms wife and husband still imply. (Other terms to be defined: lover, better half, significant other perhaps in the future issues). Housewife is a job and I'd prefer to define it later with other job descriptions. Not all married women are housewives, but all housewives are married. (バーバラ・イエーツ)

#### 妻

結婚している女性の身分。結婚によってある特定の男性との関係を、例えば「スミスさんの妻」というふうに表す。婚姻状態にある女性がそれを明らかにする表現としては「私は妻です」とは言わず、「私は結婚しています」と言う。

#### 夫

結婚している男性の身分。結婚によってある特定の女性との関係を表す場合「スミスさんの夫」と言う。婚姻状態にある男性がそれを明らかにする表現として「私は夫です」とは言わない。

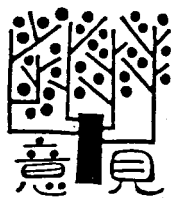
#### 配偶者

婚姻関係にある男性、または女性の一方の伴侶。中立的表現で、例えば「ベティさんはトムさんの配偶者です」とか、その逆で「トムさんはベティさんの配偶者です」と言う。

#### パートナー

中立的表現で、多くのフェミニストたちが好んで使っている言い方。婚姻関係にある人同士、およびそうでないカップルの間で自分との生活・人生に互いに深くかわり合いのある関係を持っている伴侶を表す。「パートナー」には「ワイフ」とか「ハズバンド」の表現で暗示される「誰々のもの」という所有的なニュアンスはない。主婦は職業のひとつで、私自身は、後にほかの「職業」と一緒に検討したい。既婚女性がすべて主婦とはかぎらないが、主婦はすべて既婚女性である。

(訳責：上田洋子)



くちびるに言葉を取り戻そう

結城有子

「ことしの流行語はジシユクとゲケツがトップだって」

「高校生たち、生理のことオゲケツって言うてるもの」

「宮中では、御下血 っておっしゃってるそうよ」

「その御輸血は自衛隊の選りすぐりですって」

「特別食が支給され、勤務免除とか……」

「まさか」

「だって、あれ、特定の人のを続けて……でないと危険なんでしょう」

「アジアのある国の新聞にマンガが出たんですって。病

床から、もっと血を、って叫んでる……」

「つらいなあ。過去に日本が流させた血を思い出す」

「日本人の中にだって、注射一本のおカネがないために

肉親を死なせた人は多いでしょう」

「病状報道が具体的なのは戦前には考えられなかったこと  
だけど、あそこまで具体的に言う必要があるのかな」

「人間宣言をしても、結局人間にさせてもらえないのね。

ふつうの庶民だったらいたましくて、過剰治療はもう結構、って言えるんでしょうけどね」

「マスメディアでもかなり内部批判があるみたいだけど  
うっかり言うとかビが飛ぶ……」

「あの張り込み、でも、同じ人間として切ない」

「ハゲタカが、Xモーメントを待ってる感じでしょ」

「各社、一日一千万の支出ですって？」

「そのせいか、このごろ誌面は多少は縮小されたけど」

「記帳とか自粛とかのブームをおおったのは、絶対マス  
メディアの責任ですよ」

「それに乗る日本人もなさけない」

「年輩の方たちが言っていましたよ。まるで戦前を思い出  
すって」

「記帳した人には白い羽根をあげる、なんてことにはな  
らないでしょうね」

「急にくちびるが寒くなった感じがこわい」

\*

くちびるが寒くなった分だけ、町の中にはしがないウ  
ワサ話が満ち満ちています。これも戦前と似ている……  
と母が述懐していました。

日頃勇ましいジャーナリストの方々も、なぜか沈黙を守っておられる。右翼が怖いというウワサも流れていきます。しかし、市民が一致して暴力団を追放した浜松の例を思い出します。怖いこと、みんなで言えば怖くない。

「踏み絵」におびえるのをやめませんか。私はXデーが来ようが来まいが、年賀状は例年どおり出します。

(フリーランス・ライター)

## 緊急アピール！

このままでいいの？ 天皇の問題

11月23日（祝） 12時30分

渋谷山手教会に集まって

世界に届けよう女たちの声

●お話 住井すゑ

「いま語り伝えたいこと」

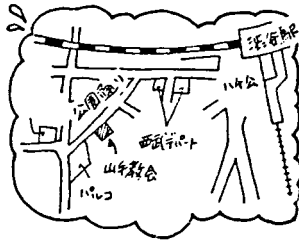
●会場から 自由発言、

歌、踊り、詩の朗読など

●当日カンパ 1000円

●会場は渋谷駅から5分

パルコのそば



## この大きさを千円！

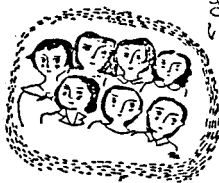
### ◆『あごろ』新年号にメッセージを

恒例の「女から女たちへ、女たちから女へ」のページを今年は拡大します。

Xデーに関係なく盛大に出してください。誌面の四分の一の大きさを会員は一点千円。ハガキをそのまま縮小できますので、ハガキに原稿を書いて、十二月二十日までにお送りください。

あなたがなさっていること、ご著書、一緒に活動したいことなど、どんなことでもどうぞ。イラスト入りも大歓迎！

〒160 東京都新宿区新宿一〇九六 あごろ



もう一度12月19日（日） 18時

有楽町マリオンで会いましょう

◆格安でゆずってください！ ワープロ、パソコン。機種は問わず、中古品でもかまいませんが、フロップピーが使えるものを。価格等ご一報ください。

(事務局)

# 女のグループ

## ＜ウキウキワクワク女性講座＞

連絡先

福岡市中央区輝国二一五八

宇佐美清子 ○九二一七二一七〇四三

福岡市民センター主催の託児付き講座の受講生たちが作った学習グループ。自主運営になってからの託児の費用をどうするか、結局全員で負担することに多数決で決まったものの、少数派であった子育て終了後の人たちは去っていった。

大々的にガレージセールをやったり、地道な学習を積み重ね、一ミニストの英会話」に加わった。

転勤族、高学歴、子育て中……、欲求不満だが学習意欲も満々で、前途多難を思わせたが、私は大いに期待した。

すでに二人は福岡を去り、一人は今年の春から、赤字覚悟で大阪まで新幹線で講義をしに、単身通勤し始めた。最近の彼女は静かな自信を感じさせる。

(甲木京子)

◆地縁の強力な土地において、セールの仕事となると、それはそのまま地縁の網目をくぐるか、自らも地縁をたぐり歩くかが前提となりますが、その割には、さいな選択を日々くり返しています。いやだな、と思う共同体です。上野さんの選択縁のお話、夢中になって読みました。

◆一年前、移動図書館で借りて読んだきりになっていた本「女40歳の出版」をふたび読んでみようと、本屋さんに注文しておいたら、ようやく先日届き、今度は一字一句をじっくり読んでみようと机の上に置いたままにしまっている。仕事であわただしく飛びまわることも終わり、ふたたび午前中二時間だけ書類整理をする身に戻るとホッとすると同時に急

に寂しさを感じ、何だか力も抜け、急に家でゴロゴロするようになってくる。すると不思議に何もかもがはかどらない。オヤオヤ、私という人間はやはり仕事が必要らしいと、その意味を確認しながら、自分の心を振り返ってみる。

(島根・三宅雅子・セールス)

先日(もう一か月ぐらい前になると思いますが)の日曜日の朝のテレビ「題名のない音楽会」を見てみると司会の黛敏

郎氏がこう言うのが聞こえてきた。十八—十九世紀の音楽は短調と長調がきちんと区別されていたが、二十一世紀に向けては、短調なのか長調なのかはつきりしないものが、生まれてくる、というような意味の言葉。私はそれを聞き、それがそのまま、人間の意識にびったり当てはまるのを感じておもしろいと思った。人間の心の中にある男性性と女性性。今までの社会は女性に女性らしくとの社会規範の中で女性性のみを、男性にはその逆に男性性のみを生きるようにしむけられてきたし、それに疑いを抱いて両性を生きようとしてきた人たちを圧倒的な数という力でもって無言のうちに押しつぶしてきた。しかし、現実には男といわず女といわず両面を持っているのだということとを長い間感覚で感じてきていた私は、黛氏の言葉を、すぐさまそのように受け取ってしまった。芸術もやはり人が作るものなのである。人の意識が変化してくれば、その創り出されるものも当然変化してくるはずだと思う。

自分自身を知り、目的を持ったところですべきことがあるということとは、生活のすべてが嬉々としてくる。そして、その流れの中で食事の支度等日常の仕事も楽しく、夫や子どもへの適当な気くばりが苦もなくできる。このことの意味するものは大きいとつくづく思う。しかし、そこまで到達する道程の何と険しいことか。自立とは、男といわず女といわずこれほど困難なものかと改めて思うと同時に、それを困難にしている原因を自分の内に認め、自分本来の内なる心に素直に困りの状況を見極めながら従う必要性をつくづく感じている。

この頃、私は、自立を急ぐまいと思うようになった。一年前の私は、資格だけ持ちながらその心の未熟さのため、小さな子どもを抱えて、社会と向き合ったとき足がすくむのを感じた。しかし、どうしても引き返すのはいやだとも思った。ここで引き返したら、もとの木阿弥。いま私にできることをコツコツやり進むしかないのだ。

私はカウンセリングを学びはじめていた。カウンセリングは、長い間、社会のみならず人間関係にどこか欠陥のあるような接し方しかできなかった私には、どうしても必要なものであったし、不遜ながら、社労士との接点というところにこのカウンセリングを考えていた。しかし、やり進むにつれ、このカウンセリングそのものが、企業、特に中小企業においてはいかに縁遠いものであるかということもわかるようになってきたが、全体数において今後の世の中には確実にカウンセラーが必要になるとも思っているし、社労士にしても、カウンセラーにしてもこうでなければならぬなどというものがあるわけではない。世の中の変化に応じてそれぞれ創り出されるものであると思っている。けれど、そのためにはやはり私は一度はどこかで働き、もっと別な視点から考えられる人間に成長することが必要だし、せめて社労士業の実務に精通することは、最低限のこととして欠くことができないと思っている。

社会というものの厳しさ、お金をいただくことの厳しさは足を踏み出したばかりの私にもひしひしと伝わってくる。ただ臆病にはなるまいとも思う。臆病になつたら家庭の中に舞い戻って自立のできない原因をすべて夫の責任にして嘆くばかりの女になってしまう。家庭が仕事かではなく、家庭も仕事も私の一部なのだとはいきなり自覚している。両方をバランスを取りながらやっていくことが私の心の安定のためにせひとも必要なのだと今は迷いもなくそう答える。

女性として生まれた私を損うことなく、むしろ女性であることを生かすことで自分の道を切り拓いていく、そういう生き方こそこれからの世の中に必要なのだとも思っている。男と女しかない世の中でお互いきっちり役割分担して生きるのではなく、それぞれできることをしながら助け合って生きることのできる世の中こそが二十一世紀に求められる社会ではないだろうか。黛氏の言葉が私にそう語りかけた。

(豊明市 二間瀬より子・社会保険労務士)

#### ◆旭川のOさんを支えて！

前号で紹介した旭川・Oさんの闘いを支援する会の連絡先は次のとおりです。

旭川市一条十六丁目右十号

村田恵子 気付

△Oさんを支える会△

現在、会員を募り、裁判に向けた署名・カンパの取り組みをしています。また、会報「あぶと」も発行中。

「Oさんの解雇問題を通し、労働権を巡り、また性差別とそれを温存させている社会のあり様、そこでの男と女の向き合い方等々の問題として、私たちもさまざまな鋭く姿勢と立場を問い直されていると思います。培ってきたものを後戻りさせることなく、さら豊かにのびやかに人々と繋がり、踏み出していけるよう希って始動しました。」(発行にあたって)

資料を送ります。支援は無論のこと、意見感想等、ぜひお寄せ下さい。

あとがき

●全国で発行されているミニコミの一部とはいえ、集まってみるとやはりそうとうな数。できるだけたくさんご紹介したい、でもあまり詰め込み過ぎて読みにくくなっても……とさんさん悩んで選んだ七十一タイトルです。キッパリわりきったはずだったのに、「ネエ、やっぱりこれも入りたいな」とモメルこと度々。どうしたってそんなにたくさんは載せられないのだから、「全国ミニコミ一覧」なんておこがましいタイトルはやめて、「ミニコミ広場」か「ミニコミ市」の感じでやることにして、やっと入稿にこぎつきました。ミニコミを集め、コメントを書いてくださった皆さま、ありがとうございます。

(札幌 細谷・今村)

表紙・野原 まさこ